

2021年7月19日(月) 19:30~

第3回 セミナー 学級の困った！を一人で抱え込まないで

▼今回の困りごと

▼話を聞かない子どもへの対応

25. 手遊びなどをして教師や他の子の話を聞いていない子への対策を教えてください。
- ➡「聞いていた？」等の声掛けはできるが、ふとした時に自分の世界に入ってしまった。
友達の話聞くことのよさを実感させるにはどうしたら良いのか。
聞いてなくても出来てしまう。

▼「書ける」が「話さない」子どもへの対応

24. ノートに自分の考えを書いているのに、発表しようとしなない。子どもには、どのような声掛けをしたら良いか教えてください。
- ➡勉強ができる子で、予想を立てたりすることができる子だが、発表が出来ない。
発表してくれれば、授業がもっと活発化するのではないか。

▼子どもの自己肯定感を高めるためには

22. 学級の子供達達の自己肯定感を高めていくためにはどんな手立てがあるのか教えてください。
- ➡「自分のことが好きですか？」の質問に「あまりそう思わない」と答えてしまう子どももいる。

▼話を聞かない子どもへの対応

25. 手遊びなどをして教師や他の子の話を聞いていない子への対策を教えてください。
- ➡「聞いていた？」等の声掛けはできるが、ふとした時に自分の世界に入ってしまった。
友達の話聞くことのよさを実感させるにはどうしたら良いのか。
聞いてなくても出来てしまう。

【他の先生方の意見】

- ・違う方向を見ていたり、足グセが悪かったりする。
- ・高学年でも聞いていない子はある→急に当てたり、楽しい活動をしたりする(聞いてないと損だよと伝える)。
- ・ここは聞いてほしいこと、絶対に聞いてほしいことは声色や表情を変えて伝える＝聞いてほしい時、聞いてほしい個所に聞いて貰えば良い。
- ・低学年の「聞く姿勢」の身に付け方
- ・高学年は、「聞く時は聞いてくれる」／低学年は「聞く姿勢」を身に付けさせなければならない。

【他の先生方の提案】

- ・「背筋が伸びているね」と他の子を褒めたらどうか。
- ➡一時は、「聞く姿勢」になるがすぐまた自分の世界に入ってしまう。

【玉置先生のご意見】

ずっと集中していることなど不可能なのではないか。

○定義を言葉にして伝える

「話し合いは、こういうものなんだよ」＝学習の価値を価値付ける。

【和田先生の提案】

聞いていない子は、ごくわずかといえ気になって当たり前。

○1年生は、家庭力の差が激しい

家庭で教えられたため、もう一度教えられても授業での面白さが体感されにくい。

1年生は、「知っているもん」「できるもん」が出てきやすい。

○考えることを促す発問をする

「答えが出るのが算数ではない」「ひらがなを書けることがゴールではない」

↓考えることを促すと、

「算数ってこういう考え方をすることだよ」「国語ってこういう風に考えるんだよ」

○1年生だからこそ価値付ける

家庭だと出来ないことは、「友達の意見を聞くこと」

「聞く意味」を価値付ける。

○長話はいけない＝丁寧で短い説明を心がける

能力的に難しい子のために短く説明する。

▼「書ける」が「話さない」子どもへの対応

24. ノートに自分の考えを書いているのに、発表しようとしなない。子どもには、どのような声掛けをしたら良いか教えてほしいです。

➡勉強ができる子で、予想を立てたりすることができる子だが、発表が出来ない。
発表してくれれば、授業がもっと活発化するのではないか。

【他の先生方の意見】

- ・ 4月は発表出来なくて当たり前という考え。
まずは、ペア活動を行って、ペア活動での態度を褒める「よく領けているね」と褒める。
ペア活動を用いて、沢山の友達と話す環境を整える(席替え等で)
- ・ 書けていることを褒める。
意図的指名や自分のせいではなく運のせいにし、分からない時は「パス」という制度
書いているけど指してほしくない時は「グー」＝手を挙げるハードルを下げる。
- ・ プリントに書く/友達に考えを伝える等の何でも良いので出来たことを認めてあげる。
- ・ 段階的に挙手を価値付ける。
- ・ 挙手を待つのではなく、挙手をしたいと思わせる＝発言したことに
- ・ 4月の段階で挙手の癖をつける。
「好きなドラえもんの道具は？」等のことを聞いていく。

【玉置先生の提案】

○手の挙がる学級は本当に良いのか

保護者の中には、手を挙がる学級はよい学級と考える方もいる。

【和田先生の提案】

○誰かに伝える手段は「書く」「話す」

性格によって、人に何かを伝えたいと思う時「書く」「話す」の二パターンがある
どちらが善悪はない＝どちらも価値付けたい。

○段階を踏んで発表までの道筋を整える

- ①書けていることを褒める
- ②「先生が紹介するね」(机間指導)
- ③「ペアで言ってみる?」「二人で少しずつ
- ④意図的指名をする/指名するタイミングは約束しておく(机間指導)
- ⑤自分から挙手する

▼子どもの自己肯定感を高めるためには

22. 学級の子も達の自己肯定感を高めていくためにはどんな手立てがあるのか教えてほしいです。

➡「自分のことが好きですか？」の質問「あまりそう思わない」と答えてしまう子どももいる。

すごく素敵な子どもで意図的に価値付けているが、自己肯定感には繋がっていない。
特別活動を利用してボランティア活動を促したりしているが…。

【他の先生方の意見】

- ・自分に自信がある子どもは、意欲的に活動できる。一方で、奥に引く子は引いてしまう。
- ➡意図的に価値づけても短期間では効果が得にくい。
- ・自分の嫌なところや苦手なところを「まあいいや」と思ったりしてしまう。
- ・マイナスの部分をプラスに言い換えたりしてあげる。
- ・日本人は、自分自身でレベルを上げていく民俗だから、自己肯定感が低い＝満足しない民俗。

【玉置先生からの発問】

○自己肯定感ってなんだろうか

- ・発表したい子ども
- ・学級委員や生徒会等の人に認められたいと願う子ども

○子ども同士で自己肯定感を高め合う

子ども同士の横のつながりを褒め合う関係に教師が促す。

【和田先生からの発問】

○心の貯金

根拠のない自信も応援する。

心の貯金は、周りの大人から小さい頃に貯めるもの
言葉にして伝える。

行動は、数値化されないため、言葉で伝えることで心の貯金にする。

○1日のなかで道徳的な言葉をたくさんかける

褒め言葉で心の貯金を貯める。

○喋りながら丸付けをする(玉置流)

テストの丸付けをする時に、子どもが目の前にいると思って、褒める声を出しながら丸付けをする。ただし、周りに人がいない時にする。

褒めるためのボキャブラリーが増える。

【総括】

○自己肯定感の高まり＝褒められること